

受験番号：26— —	氏名：
---------------	-----

2026 年度 植栽基盤診断士認定試験

学科試験問題

(択一式)

	出題数	配点
1 択一式：	20 問	(各 3 点) 60 点
2 計算・記述式： (別紙)	1 問	40 点

【注 意】

1. 答えは解答用紙に記入してください。
2. 答えを訂正する場合は、消しゴムでていねいに消して訂正してください。
3. この問題用紙の余白は、計算等に使用して差し支えありません。
4. 退席の際、解答用紙とともにこの問題用紙も回収しますので、持ち帰らないでください。

〔問題 1〕 造園植栽の特徴と植栽基盤に関する記述について、**適当なもの**はどれか。

- (A) 造園植栽を不適期に行うと、生育不良や枯損の可能性が高まる。
 - (B) 造園植栽の目的として修景植栽や環境保全植栽、機能植栽があり、特殊空間は含まない。
 - (C) 植栽基盤とは、根が支障なく伸長できる広がりや排水層と地盤を含んだものである。
 - (D) 造園植栽の目的と機能を実現するために使用される植物の種類や形状寸法は、極めて限定され少ない。
-

〔問題 2〕 植栽基盤に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 都市緑化分野では、自然土壌と異なり、植栽基盤整備が必要な植栽地が多い。
 - (B) 植栽基盤には、上層、下層、排水層が必須である。
 - (C) 植栽基盤の広がりや厚さの目安は、生育目標時の樹高別に定められている。
 - (D) 有効土層内の土壌は、良好な透水性と適度な硬度が重要である。
-

〔問題 3〕 pF 値と土壌水分に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) pF 値は、水が土壌に引き付けられている力の大きさを表した数値である。
- (B) pF 値が高いほど土壌は乾燥状態にあり、pF4.2 は永久萎凋(しおれ)点である。
- (C) 植物が正常に生育が行えなくなる成長阻害水分点は pF3.8 である。
- (D) 易有効水分とは、~~圃場~~[※]圃場容水量から初期萎凋(しおれ)点までの水分をいう。

※試験では「圃場用水量」との誤りがございました。
お詫びして訂正いたします。

.....

〔問題 4〕 地形とその成り立ちに関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 台地は、かつての低地が地盤の隆起や海面の低下によって形成された一段高い場所である。
 - (B) 低地は、川が上流から運んできた土砂が堆積してできた地形である。
 - (C) 丘陵地は、平野と山地の中間にあり、稜線の高さがそろった土地である。
 - (D) 火山地は、造山運動によって隆起してできたものであり、急斜面が多く、谷底には平地がほとんどない。
-

〔問題 5〕 土壌断面に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 土壌断面または土壌コアを直接観察し、土壌条件を把握するとともに、各層位の代表的な土を調べることで植物の生育への影響等に関する基本的な情報を得る。
 - (B) 調査方法には、実際に地盤を掘削して土壌断面を直接観察する方法と、長谷川式大型検土杖を用いて観察する方法がある。
 - (C) 長谷川式大型検土杖は、掘削せずに調査を行えるので労力を大幅に軽減できることから、広範囲、多点数の調査に適している。
 - (D) 調査項目には、土壌の層位区分・土性・土色・硬度・水分状況・構造・石礫・地耐力・根系等がある。
-

〔問題 6〕 土壌の室内分析に関する記述として、**適当なもの**はどれか。

- (A) 現地土壌調査を行う前に、土壌成分の分析や客土材の品質を知るために行う。
 - (B) 水素イオン濃度指数(pH)と電気伝導度(EC)については、植栽基盤診断士が行うことが望ましい。
 - (C) 採取する検体の量は、一般的には 5kg～10kg であるが、分析項目によって異なるため、詳細は調査機関に相談することが望ましい。
 - (D) 採取にあたっては、石礫、植物の落ち葉・落枝、根などは極力現状のまま収集する。
-

〔問題 7〕 透水層工に関する記述として、**適当なもの**はどれか。

- (A) 植栽基盤の表面排水を行うために設置する縦穴排水の設置作業
 - (B) 植栽基盤の浅層地下排水のために行う暗渠管の設置作業
 - (C) 植栽基盤の不透水層の改良のために行う素掘り側溝設置作業
 - (D) 植栽基盤の浅層地下排水のために行う縦穴排水の設置作業
-

〔問題 8〕 設計変更が可能と考えられる事例として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 設計図書に明示された地下埋設物の位置が現場と一致しない場合
 - (B) 設計図書に明示された地盤高が現場と一致しない場合
 - (C) 施工中に地中埋設物を発見したので、養生のため自主的に鉄板を敷設した場合
 - (D) 流用土運搬において、土取場が変更になった場合
-

〔問題 9〕 土層改良工に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 普通耕は、下層地盤が良好で、有効土層が 20～30 cm 程度の場合に適用する。
 - (B) 混層耕は、深耕と普通耕を組み合わせたものをいう。
 - (C) 深耕は、普通耕に土壌改良材を混入することをいう。
 - (D) 心土破碎は、コンクリートブレーカーを使用するが、大面積の場合は、リッパードーザーを使うと効率が良い。
-

〔問題 10〕 真珠岩系パーライトの改良効果に関する記述として、**適当なもの**はどれか。

- (A) 通気性・保水性は改良できるが、透水性は改良できない。
 - (B) 土壌の保肥力を高めるための改良には向かない。
 - (C) 物理性改良効果が高いが、高価である。
 - (D) 粘質な土壌は改良できるが、砂質土壌の改良はできない。
-

〔問題 11〕 植物発生材堆肥に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 固結土壌の膨軟化効果がある。
 - (B) 透水性・保水性・保肥性の改良効果がある。
 - (C) 完熟した堆肥を用いると、窒素飢餓を生じやすい。
 - (D) 長期的な養分供給効果がある。
-

〔問題 12〕 表土保全に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 表土保全は、土地の造成時に失われた生態システムを再構築するという一面も担っている。
 - (B) 表層付近(A 層または B 層の一部)の良質土を採取する。
 - (C) 仮置きする場合には、用地が少なく済むように、出来るだけ高く積み上げる。
 - (D) 表土の撒き出しは、下層へ埋め立てることがないように留意する。
-

〔問題 13〕 屋上緑化で使用する耐根層（耐根シート）に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 防水層の下に設置する。
 - (B) 重ね合わせ部は溶着する。
 - (C) 性能は長期にわたり維持する必要がある。
 - (D) パラペット(立上り部)の植栽基盤仕上がり面の上まで設置する。
-

〔問題 14〕 植栽基盤整備が行われた植栽地の経年的な課題として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 風や雨による浸食
 - (B) 雨滴や人の踏圧による固結
 - (C) 植物による栄養分の収奪
 - (D) 植物の成長による土壌生物の減少
-

〔問題 15〕 植栽基盤が成熟する過程の説明として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 落葉・落枝などの有機物が地表に積もる。
 - (B) 風雨により有機物が分解される。
 - (C) 表土層に腐植などの栄養分が増える。
 - (D) 団粒構造が発達し、表土が形成される。
-

〔問題 16〕 掘削による土壌断面調査に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 土壌断面を観察するため、ヘラやナイフの先で根系を掘りおこす。
 - (B) 土壌硬度と透水性の測定は、断面観察面から 3m 以上離れたポイントで測定する。
 - (C) 水分状況の判定については、乾、半乾、半湿、湿、多湿、過湿の 6 区分である。
 - (D) 断面調査の記録は、まずは土性や土色などから層位区分する。
-

〔問題 17〕 指頭法による簡易な土性判定に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (A) 転がしても粒状のままで固まらないので、「砂土」と判定した。
 - (B) 転がして伸ばすと太紐 (>3mm) になるが、さらに細くしようとすると切れてしまったので、「砂壤土」と判定した。
 - (C) 転がして伸ばすと紐状 (3mm) になるが、さらに伸ばしたり、曲げたりすると切れてしまうので、「壤土」と判定した。
 - (D) 転がして伸ばすと紐 (<3mm) になり、さらに伸ばしたり、曲げたりすると切れてしまうので、「埴土」と判定した。
-

〔問題 18〕 長谷川式土壌貫入計による土壌硬度調査について、**適当でないもの**はどれか。

- (A) S 値が 1.0cm/drop 以下の固結層が層厚 5cm 連続していたので、固結による不良地盤と判定した。
 - (B) S 値 1.2cm/drop の根の侵入の可否は、「根系発達阻害樹種あり」と判定する。
 - (C) S 値 1.6cm/drop の根の侵入の可否は、「根系発達に阻害なし」と判定する。
 - (D) S 値 4.0cm/drop 以上は、支持力低下、及び乾燥に留意する。
-

〔問題 19〕 水田の跡地で土性が埴土であった植栽地において、3ヶ所の現場透水試験を行った。最終減水能はそれぞれ 45mm/hr、85mm/hr、53mm/hr であった。この植栽地に対する診断として、**適当なもの**はどれか。

- (A) 透水性は不良であるが、立地条件や土性からは排水不良となる可能性が低い。
 - (B) 透水性はやや不良であり、立地条件や土性からは排水不良となる可能性が高い。
 - (C) 透水性は可であるものの、立地条件や土性からは排水不良となる可能性が高い。
 - (D) 透水性は良好であり、立地条件や土性からは排水不良となる可能性が低い。
-

【問題 20】 建設残土が盛土された植栽予定地で、水素イオン濃度指数(pH)を測定したところ次のような結果が得られた。この調査結果に対する考察として、**適当なもの**はどれか。

深さ	土の種類	pHの 測定結果
0cm		
I 層	建設残土の 盛り土	7.3
20cm		
II 層	元地盤の 表層土	6.5
50cm		
III 層	元地盤の 下層土	5.2
80cm		

- (A) 各層位とも、水素イオン濃度指数(pH)は適正な範囲で、特に問題は見られない。
- (B) I 層については石灰処理などの影響でアルカリ性が強いので、中和矯正をする必要がある。下層の II 層、III 層については問題はない。
- (C) III 層は酸性が強いので、中和矯正する必要がある。表層の I 層、II 層については問題はない。
- (D) I 層は石灰処理などの影響でアルカリ性が強く、III 層は酸性が強いので、I 層、III 層ともに中和矯正をする必要がある。
-

受験番号

	-				-			
1	0	0	0		0	0	0	
2	0	0	0		0	0	0	
3	0	0	0		0	0	0	
4	0	0	0		0	0	0	
5	0	0	0		0	0	0	
6	0	0	0		0	0	0	
7	0	0	0		0	0	0	
8	0	0	0		0	0	0	
9	0	0	0		0	0	0	
0	0	0	0		0	0	0	

氏名

■マークの記入例

よい例	悪い例				
●	⊗	⊖	○	✎	✎

< 解答用紙記入上の注意 >

1. 記入は必ずHBより濃い黒鉛筆・シャープペンシルで、○の中を正確にぬりつぶしてください。
2. 解答を訂正する場合は消しゴムで、あとが残らないようにきれいに消してください。
3. 記入項目・塗りつぶし枠をはみ出さないように注意してください。
4. 解答用紙を折り曲げたり汚したりしないでください。

1 択一式問題

問題	解答欄			
	A	B	C	D
問題 1	0	0	0	0
問題 2	0	0	0	0
問題 3	0	0	0	0
問題 4	0	0	0	0
問題 5	0	0	0	0
問題 6	0	0	0	0
問題 7	0	0	0	0
問題 8	0	0	0	0
問題 9	0	0	0	0
問題 1 0	0	0	0	0

問題	解答欄			
	A	B	C	D
問題 1 1	0	0	0	0
問題 1 2	0	0	0	0
問題 1 3	0	0	0	0
問題 1 4	0	0	0	0
問題 1 5	0	0	0	0
問題 1 6	0	0	0	0
問題 1 7	0	0	0	0
問題 1 8	0	0	0	0
問題 1 9	0	0	0	0
問題 2 0	0	0	0	0

(この枠内のみ、メモにご使用ください)

受験番号：26— —	氏名：
---------------	-----

2026 年度 植栽基盤診断士認定試験 学科試験問題 (計算・記述式)

		出題数	配点
1	択一式：(別紙)	20 問	(各 3 点) 60 点
2	計算・記述式：	1 問	40 点

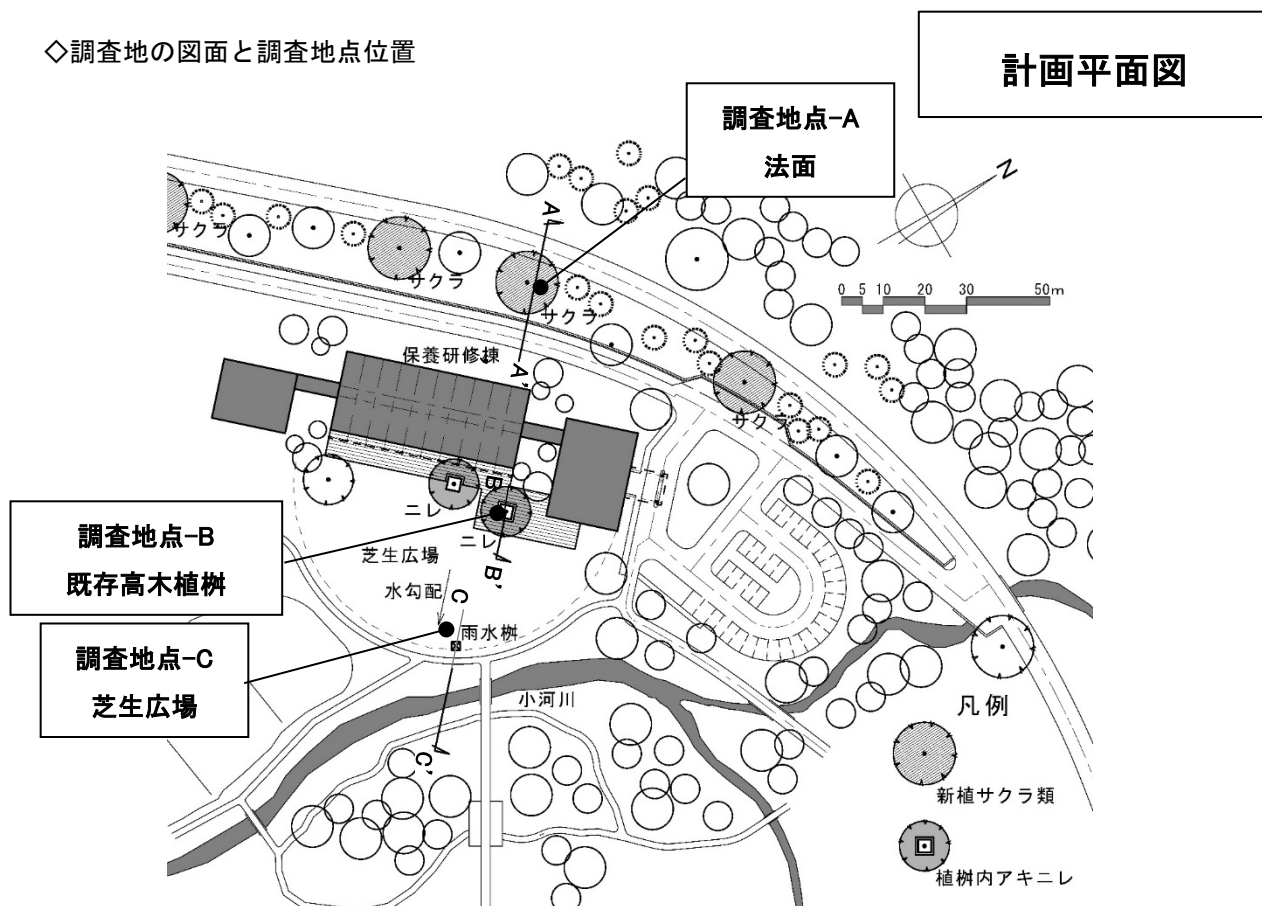
【注 意】

1. 答えは解答用紙に記入してください。
2. 答えを訂正する場合は、消しゴムでていねいに消して訂正してください。
3. この問題用紙の余白は、計算等に使用して差し支えありません。
4. 退席の際、解答用紙とともにこの問題用紙も回収しますので、持ち帰らないでください。

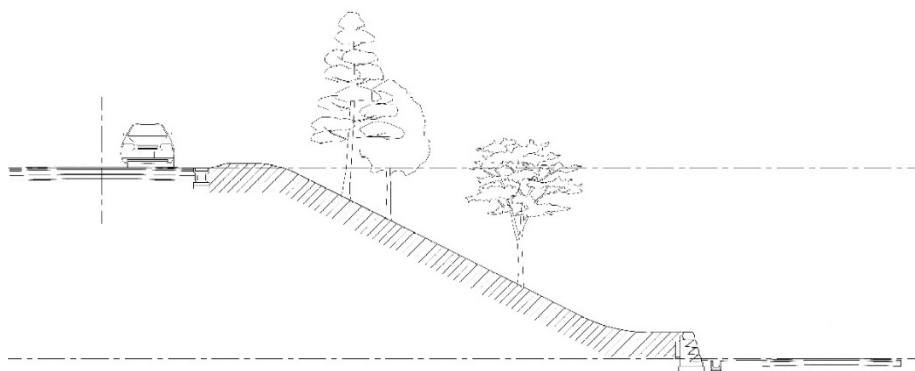
2 計算・記述式問題

以下に示す図表及び前提条件と土壌調査結果(1)～(4)に基づき、設問1、2について答えなさい。
 なお、図などを記入する場合は、設問ごとの解答欄内のみとする。

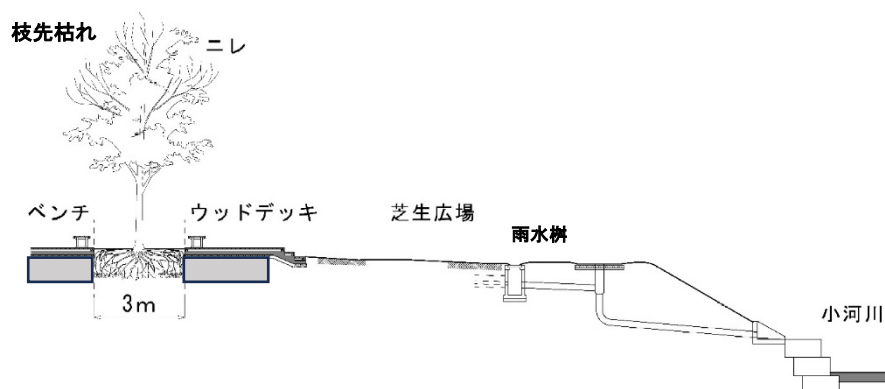
◇調査地の図面と調査地点位置



**A-A' 断面図
法面の植栽模式図**

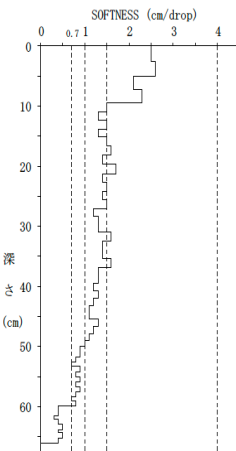


**B-B' C-C' 断面図
ウッドデッキの植樹模式図
芝生地の植栽模式図**



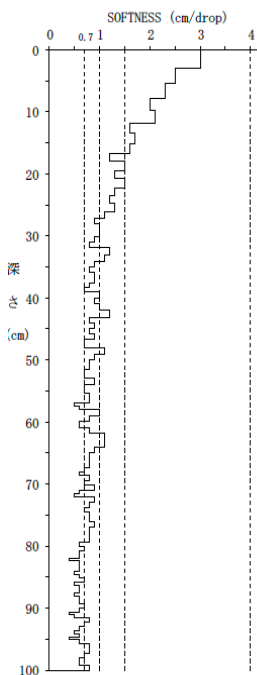
(1) 土壌断面調査結果表 (各調査機器は、いずれも長谷川式:大型検土杖、土壌貫入計、簡易現場透水試験器による)

A 地点 (法面)

土 壌 断 面										土 壌 硬 度	透 水 性			
地点番号	A		法面植栽地	当日天候 前日天候	晴れ 曇り	調査日	2026年6月30日							
						調査法	大型検土柱							
深さ cm	層位	土 性	土 色	土壌構造	水分状況	石 礫	根 系	pH	備考					
0—														
10— 9.5	I	L	10YR2/2 黒褐	やや団 粒状	乾	小礫	あり 枯根含む	6.8	植栽用客土					
20— 30— 38	II	LS	2.5Y/3/2 黒褐	単粒状	半湿	10mm以下 のコン リートガラ あり	あり 枯根含む	7.0						
40— 50— 60— 66	III	SL	7.5Y2/1 黒	壁状	半湿	3cm以下の コンクリート ガラあり	なし	7.2						
										打込み不可中止				

調査地点-A		
試験孔の深さ	60cm	
試験孔底の 目盛の読み	800	
	時刻	目盛の 読み
予備注水	13:10	700
再注水	13:40	705
計測-1	14:00	742
計測-2	14:20	751

B 地点 (植樹内)

地点番号	B			既存高木植栽	当日天候 前日天候	晴れ 曇り	調査日	2026年6月30日			<table><tr><th colspan="3">調査地点-B</th></tr><tr><td>試験孔の深さ</td><td colspan="2">60cm</td></tr><tr><td>試験孔底の 目盛の読み</td><td colspan="2">800</td></tr><tr><td></td><td>時刻</td><td>目盛の 読み</td></tr><tr><td>予備注水</td><td>13:20</td><td>700</td></tr><tr><td>再注水</td><td>13:50</td><td>700</td></tr><tr><td>計測-1</td><td>14:10</td><td>740</td></tr><tr><td>計測-2</td><td>14:30</td><td>750</td></tr></table>	調査地点-B			試験孔の深さ	60cm		試験孔底の 目盛の読み	800			時刻	目盛の 読み	予備注水	13:20	700	再注水	13:50	700	計測-1	14:10	740	計測-2	14:30	750
調査地点-B																																			
試験孔の深さ	60cm																																		
試験孔底の 目盛の読み	800																																		
	時刻	目盛の 読み																																	
予備注水	13:20	700																																	
再注水	13:50	700																																	
計測-1	14:10	740																																	
計測-2	14:30	750																																	
深さ cm	層位	土 性	土 色	土壌構造	水分状況	石 礫	根 系	pH	備考																										
0—																																			
10— 20— 21	I	LS	2.5Y4/2 暗灰黄	壁状	乾	小礫あり	なし	7.5																											
30— 32	II	砕石	—	—	—	—	なし																												
40— 50— 60— 62	III	SL	10Y5/6 黄褐	壁状	半湿	2cm以下の コンクリート ガラ含む	なし	7.5																											
70— 80—	IV	SiL	7.5Y4/1 褐灰	壁状	半湿	3cm以下の コンクリートガラ 含む	なし	7.5																											
90— 100— 100	V	SL	7.5Y1/2 黒	壁状	半湿	小礫含む	なし	7.5																											

C 地点 (芝生広場)

地点番号	C		芝生広場	当日天候 前日天候	晴れ 曇り	調査日 調査法	2026年6月30日 大型検土杖		
深さ cm	層位	土 性	土 色	土壌構造	水分状況	石 礫	根 系	pH	備考
0— 8.5	I	L	10YR2/2 黒褐	やや団 粒状	半湿	小礫あり	草本類の 根あり	6.8	植栽用客土
10— 15— 20— 30— 35	II	SL	10YR5/6	壁状	半湿	小礫あり	なし	7.8	造成発生土

SOFTNESS (cm/drop)

深

調査地点-C		
試験孔の深さ	40cm	
試験孔底の 目盛の読み	600	
	時刻	目盛の 読み
予備注水	13:30	500
再注水	13:55	505
計測-1	14:15	528
計測-2	14:35	531

前提条件

- ① 対象地は、15 年前に完成した企業の保養研修施設で、切盛造成工事を伴って建設され、造園工事は建築工事、舗装工事等の工程後半で施工された。
- ② 植栽後は、剪定等による通常の維持管理は行われてきたが、植栽樹木の一部と芝生に生育障害が生じていることから、現況土壌の調査を実施し生育改善対策を講じることとなった。
- ③ **調査地点-A**:敷地北西側の法面は盛土造成された工区で、一部が裸地化しコケが生えた状態である。既存樹の樹勢回復を図るとともに、保養研修施設の沿道修景を図ることからサクラ類（ $C=0.20$ ）を新植する。法尻部分には水のしみ出しが認められることから、新植樹木の植付位置に配慮し、将来的にも健全な生育を担保する計画とすることが求められている。
- ④ **調査地点-B**:ウッドデッキに設置された植栽内のアキニレ（ $H=7.0$ 、 $C=0.6$ ）は、細根がびっしりと詰まった状態であり、数年前から枝先が枯れはじめたことから、植栽内で施工可能な樹勢回復対策を行うものである。必要に応じて植栽の拡張、ベンチの撤去は可能である。
- ⑤ **調査地点-C**:芝生広場は、傷みが激しく裸地状態にあることから、植栽基盤を改良しノシバで張り替えを行うものである。なお、芝生広場は建物から園路に向かって表面勾配がついているものの、降雨直後の目視調査では地表面の一部に滞水が見られる。
- ⑥ 有効土層の厚さと広がり、植栽植物の生育特性および図表に基づき設定すること。
- ⑦ 暗渠排水管を設置する場合は、最寄りの雨水桝に接続が可能である。雨水桝の流出管底高は、暗渠排水管の管底-100mm 以上の確保が可能である。
- ⑧ 上記①～⑦に記載されていない事項については、考慮しないものとする。

設問

設問-1 調査地点-A の調査結果を基に、**既存樹の樹勢回復方法、新植高木の植栽基盤整備工法**について簡潔に記述しなさい。

設問-2 調査地点-B または C のいずれかを選択し、下記の事項について記述しなさい。

共通

- 選択した調査地点の【①土壌断面、②土壌硬度、③透水性(最終減水能)、④pH】についての調査結果から**植栽基盤としての判定**をしなさい。

選択式

- 選択した調査地点に応じ、下記について**整備目標値・整備工法**を明確にした上で、**植栽基盤の整備方針**を簡潔に記述しなさい。

B を選択した場合

既存樹木の樹勢不良の原因と樹勢回復対策を実施するための**植栽基盤の整備方針**

C を選択した場合

ノシバ張り替えにより健全な芝生地とするための**植栽基盤の整備方針**

※こちらの面は採点に用いません（計算・メモ・下書きなどに利用可）